

Tokkyo.Ai 最新動向調査報告

Executive Summary (要約)

Tokkyo.Aiは、特許検索SaaSの枠を越え、社内技術データと公開特許情報を統合して「AIが調査→AIが整理→人が意思決定」という流れを実装する“AIエージェント型の技術探索・知財判断基盤”へ拡張している。¹ 2026年3月のアップデートでは、①社内資料（PDF/Word/Excel）の高精度取り込み、調査計画自動設計・再探索・ノイズ低減など「Technology Explorer」基盤の強化、②特許の市場価値・競争影響度・事業整合性をスコア化する価値評価機能、③知財部を持たない企業向けに、発明候補抽出から出願判断・競合分析・将来価値評価までを一体化した新機能「仮想知財部」を提供開始した点が、直近の重要トピックである。² 提供形態はクラウドSaaS型（エンタープライズ版あり）と明記され、価格は初期費用0円・1ID月額2万円（税抜、2026年4月以降に3.5万円へ改定予定）が公開情報として確認できる。³

調査条件と情報源の扱い

前提として指定された公式リリース（リーガルテック社サイトのnotice/260316）は、調査時点で閲覧ツール側から403（Forbidden）となり、本文全文の直接確認ができなかった。⁴ そのため、同一タイトル・同日付でリーガルテック社が配信しているPR TIMES掲載文面を一次情報（公式発表の再掲）として優先参照し、補完としてTokkyo.Ai製品サイト、関連する他の公式プレスリリース、学術・政策文献、主要国内メディア記事を用いた。⁵

調査対象属性／観点（明示的に列挙）

- 製品概要（機能一覧、AIエージェントの役割、ワークフロー）
- 新機能『仮想知財部』の詳細（発明候補抽出、出願判断、競合分析、将来価値評価の手法・アルゴリズム、入力データ要件、出力形式）
- 提供形態と価格モデル（SaaS/オンプレ、API、導入支援、料金体系）
- 対象ユーザーとユースケース（中堅・中小企業向けの想定導入シナリオ）
- 技術基盤（AIモデル、特許データ、外部連携、セキュリティ・データ保護）
- 競合比較（国内外の類似サービスと機能差分）
- 導入メリットとリスク／留意点（法的・実務的観点、誤判定、説明可能性、ガバナンス）
- 事例・導入実績
- 今後の展望と推奨アクション（導入検討ステップ、PoC設計案）

製品概要とワークフロー

Tokkyo.Ai（MyTokkyo.Aiを含む）は、知財判断を勘・経験に依存させず、AIエージェントで調査から価値評価・マネタイズ判断までを一気通貫で支援する「知財戦略基盤」と位置づけられている。⁶ 中核となるAIエージェントの役割は、質問理解→調査方針（計画）の設計→必要情報の抽出→不足時の再探索→根拠提示を通じて、調査プロセス自体を自律実行へ近づける点にある。⁷

主要機能一覧（公開情報ベース）

カテゴリ	機能（例）	主な出力・狙い	根拠
AIチャット	特許情報を対話で調査	疑問に対し迅速に特許情報へアクセス	8
生成AI	特許明細書ドラフト作成支援（生成AI/生成AI Plus）	発明届・発明提案書等の作成支援、ドラフトをテキスト形式でDL、日本語/英語対応	9
AI検索	自然文入力で類似特許検索	文脈解析により関連文献から類似特許を提示	8
画像検索	AIイメージ商標検索	画像アップロードで類似商標検索	8
エージェント機能（基盤）	Technology Explorer	社内資料インポート強化、調査計画自動設計、再探索、ノイズ削減、根拠表示強化	10
価値評価	市場影響度等の定量スコア	市場影響度、競合ブロック力/代替性、将来マネタイズ確率、維持コスト対比、事業整合性などを算出・可視化	11
統合判断	仮想知財部	発明候補抽出→出願判断→競合分析→将来価値評価→優先順位可視化を一体化	12

ワークフロー概念図（Mermaid）

flowchart TD

A[社内技術資料：PDF/Word/Excel] --> B

A2[発明メモ/要件・目的] --> B

A3[公開特許情報] --> B

B[AIエージェント：調査計画自動設計・再探索] --> C[意味単位に分解/統合]

C --> D[類似特許探索・差分整理]

D --> E[競合関係分析：ブロック力/代替性]

E --> F[価値評価：市場影響度/マネタイズ確率/維持コスト等]

F --> G[出願判断候補・優先順位の可視化]

G --> H[出力：レポート/対比表/テキストDL]

H --> I[人(経営/技術/弁理士)が最終判断]

参考画像（オンライン、URL付き）

- 仮想知財部（PR画像）：https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/42056/450/42056-450-b9a8b7e46abc3488d5b802981c3bd4b1-1999x1231.jpg ¹³
- Technology Explorer（PR画像）：https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/42056/443/42056-443-d5a07e0f5abe561bcd62d746a577649e-1999x1231.jpg ¹⁴
- 災害対応ロボット事例（PR画像）：https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/42056/445/42056-445-8057dbb16690f1cda1e53ea8386d53cb-1999x775.jpg ¹⁵

新機能『仮想知財部』の詳細

「仮想知財部」は、知財部を持たない企業でも戦略的な特許判断ができるよう、発明候補抽出から出願判断、競合分析、将来価値評価までを一体化して提供するAIエージェント機能として発表されている。¹² 公

式に列挙されている構成要素は、発明候補の自動検出、出願要否チェック補助、競合特許との関係分析、将来価値・マネタイズ可能性評価、出願優先順位の可視化である。¹²

機能別の入出力要件・出力形式（確認できる範囲）

機能	入力データ要件（公開情報）	処理・アルゴリズム（公開情報）	出力形式（公開情報）
発明候補抽出	社内技術資料の取り込みが前提になり得る（PDF/Word/Excel等）	「非構造化データを意味単位で分解し、公開特許情報と統合」と説明。具体アルゴリズムは未指定	候補の提示（形式詳細は未指定）
出願判断補助	発明候補＋既存特許（先行技術）参照	「AIが調査方針を設計→抽出→不足なら再探索」型のエージェント挙動。判定ルールの詳細は未指定	出願要否のチェック補助、優先順位可視化（フォーマット未指定）
競合分析	公開特許情報＋（必要に応じ社内資料）	「競合特許との関係分析」。具体の類似度/クレーム対応アルゴリズムは未指定	関係性分析（未指定）
将来価値評価	特許（群）を対象とした評価指標の算出	市場影響度、競合ブロック力/代替性、マネタイズ確率推定、維持コスト対比、事業整合性などの指標をAIで算出・可視化	スコア・指標の可視化（詳細フォーマット未指定）
成果物生成（周辺）	発明メモ/技術資料	発明提案書・明細書草案等の生成支援（テキストDL可）	テキスト形式DL、日本語/英語対応（明細書ドラフト）

根拠：仮想知財部の機能範囲（上段）¹²、社内資料インポートと意味単位分解（Technology Explorer）¹⁰、価値評価指標（AI分析機能）¹¹、生成AIのテキストDL等⁹

「手法・アルゴリズム」の解像度について（厳密な整理）

- Tokkyo.Ai側が明示している“中核アルゴリズム要素”は、(a) 調査計画の自動設計、(b) 再探索ロジック、(c) ノイズ削減、(d) 根拠表示強化、(e) 非構造データを意味単位に分解して統合、である（モデル名や学習データ、評価データセット等は未指定）。¹⁰
 - 将来価値評価に関しては、Tokkyo.Aiは「市場影響度スコア」「将来マネタイズ確率推定」等の“算出対象指標”を列挙するが、どの特徴量（例：被引用、更新、ファミリー等）をどのモデルで用いるかは公開されていない（未指定）。¹¹
 - ただし一般論として、学術・政策文献では、被引用（forward citations）やファミリーサイズ、更新（renewal）等が特許価値・質の代表的な指標として広く用いられる。¹⁶
- 以上より、「仮想知財部」の“アルゴリズム詳細”は、現時点の公開情報ではコンセプトと一部のエージェント機構までに留まり、数理仕様は確認できない（未指定）と結論づけるのが妥当である。²

提供形態と価格モデル

提供形態は「クラウドSaaS型 / エンタープライズ版提供あり」と明記されている。¹⁷ 価格については、2026年3月5日の発表で「初期費用0円、1IDあたり月額2万円（税抜）、2026年4月以降に月額3.5万円（税抜）へ値上げ予定」と公開されている。¹⁸

項目	公開情報（確認結果）	備考
SaaS/オンプレ	SaaS：明記／オンプレ：未指定	「エンタープライズ版提供あり」以上の形態差（閉域/オンプレ等）は未指定 ¹⁷
API	未指定	「API提供」の一般的表現は周辺発表で見られるが、Tokkyo.Aiの機能としてのAPI仕様は未確認 ¹⁹
導入支援	未指定（ただしデモ/問い合わせ/無料トライアル導線あり）	問い合わせ・トライアル導線は確認可能 ²⁰
料金体系	初期費用0円、1ID月額2万円（税抜）。2026年4月以降、月額3.5万円（税抜）へ改定予定	価格ページ自体は閲覧ツールで403となり、ページ本文の直接確認は不可（未確認） ²¹

対象ユーザーとユースケース

仮想知財部は「知財部を持たない企業」「中堅・中小企業や成長企業」を主な想定に据え、初期知財体制構築、出願ポートフォリオ整理、経営陣と技術者の共同判断、弁理士との連携強化といった利用シーンが提示されている。 ¹²

中堅・中小企業向けの導入シナリオとしては、(1) 技術者が日々の改善・開発メモを社内資料として取り込み、(2) AIが発明要素を整理し先行技術との差分を抽出、(3) 価値評価スコアで優先順位を付け、(4) 経営判断（出願/秘匿/提携等）に接続し、弁理士レビューで最終化する、という“判断の型”を短期間で作ることが主眼になる。 ²²

技術基盤とデータ保護

Technology Explorerでは、社内資料（PDF/Word/Excel、特許管理リスト）の解析と、公開特許情報の横断統合が強化されたとされる。 ¹⁰ また、内部LLMの高度化として、調査計画自動設計、再探索ロジック強化、ノイズ削減性能改善が挙げられ、UI面でも調査プロセス可視化や根拠表示強化が示されている。 ¹⁰ モデル面では、製品サイト上で「ChatGPT-4oで発明のライフサイクルを加速」との記載があり、生成AI機能が特許文書ドラフト作成を担う構成が読み取れる一方、機能ごとにどのモデルを使うかの網羅的一覧は公開情報からは確定できない（未指定）。 ²³

データ保護に関しては、「検索クエリを社外に出さない」「プライベートAI特許」として、検索クエリが機密情報になり得る点を踏まえた設計思想が強調されている。 ²⁴ ただし、個別の情報セキュリティポリシー/利用規約ページは調査環境で403となり、第三者が検証可能な形での詳細確認はできなかつた（確認できず）。 ²⁵

競合比較と機能差分

競合比較（国内外、公開情報ベース）

サービス（運営）	主な対象領域	特徴（要旨）	Tokkyo.Aiとの差分（要旨）	根拠
Tokkyo.Ai（リーガルテック株式会社 ²⁶ ）	調査～判断～文書生成	社内資料取込＋公開特許統合、調査計画自動設計/再探索、価値指標スコア化、仮想知財部（候補抽出～出願判断の統合）	－（基準）	²⁷

サービス（運営）	主な対象領域	特徴（要旨）	Tokkyo.Aiとの差分（要旨）	根拠
AI Samurai ONE（株式会社AI Samurai ²⁸ ）	出願前調査～ドラフト	検索/俯瞰（IP landscape）、審査シミュレーション、生成AIで明細書ドラフト等	「仮想知財部」相当の“発明候補抽出→優先順位”までの統合は公開情報からは未確認	29
Patentfield AIR（Patentfield ³⁰ ）	検索・読解・分析	AIが用途/課題/効果/特徴で要約・構造化、平易語検索、マッピング分析。AI生成テキストの誤り可能性を明示	文書生成（明細書草案）や“調査計画自動設計”はこのソースでは未確認。誤り申請導線など運用面の注意喚起が明確	31
サマリア（パテント・インテグレーション株式会社 ³² ）	読解支援・実務補助	LLMでノイズスクリーニング、分類支援、発明評価支援。評価理由の文章説明。法的見解や明細書作成機能は「ない」と明記	Tokkyo.Aiは明細書ドラフト等の生成を提供。サマリアは“生成しない”ことを明確化	33
PatentSQUARE（パナソニック株式会社 ³⁴ ）	特許調査基盤	特許調査ノウハウをシステム化したクラウド。AI検索（オプション）等。画像検索・商標検索は不可	Tokkyo.Aiは商標の画像検索を掲げる一方、PatentSQUAREは特許調査特化で範囲が明確	35
PatentSight+（LexisNexis ³⁶ ）	分析・意思決定支援	競合分析、ベンチマーク、ポートフォリオ最適化向け。キュレーションデータ+ワークフロー+可視化	Tokkyo.Aiは社内技術資料の取り込みと“発明→出願判断”側へ寄せた訴求が強い	37
Derwent Patent Search（Clarivate ³⁸ ）	検索・FTO/有効性判断	特許性・FTO・有効性判断を迅速化する検索基盤として訴求	Tokkyo.AiはSME向け仮想知財部・社内文書統合の“実装基盤”色が濃い	39
Orbit Intelligence（Questel）	検索・分析（特許+文献）	特許検索・科学文献・分析を含むとされる	Tokkyo.Aiは「調査計画の自動設計・再探索」等のエージェント機構を強調	40
PatSnap（PatSnap ⁴¹ ）	統合インテリジェンス	AI-native、IP向けタスク特化AIエージェントを謳い、特許検索/分析/モニタリング等	Tokkyo.Aiは日本語圏の“知財部不在”課題に直接刺す仮想知財部を前面化	42
PatentPal	明細書作成支援	特許アプリケーションの機械的記述の自動化を訴求	価値評価・競合分析・社内文書統合はこのソースでは未確認で、作成支援に特化	43

導入メリットとリスク／留意点、事例・導入実績、今後の展望と推奨アクション

導入メリットとして、属人的・断片的になりがちな知財判断を「組織的・継続的なプロセス」へ転換し、知財部不在でも出願判断の遅れや外部依存を緩和する、という狙いが明確に示されている。¹² また、調査プロセス可視化・根拠表示強化は、説明可能性を上げ、経営会議等で扱える状態へ寄せる設計意図と整合する。⁴⁴

一方で、(a) 誤判定・ハルシネーション、(b) 入力資料の機密性（技術情報・検索ログ）、(c) 評価指標が「自社独自スコア」である点による外部比較可能性、(d) 最終判断責任の所在（ガバナンス）には注意が必要である。⁴⁵

公開事例として、災害対応ロボットの状況判断支援AI技術を題材に、技術資料を入力してAIが「課題・解決手段・技術的效果」の観点で発明要素を整理し、発明提案書としてまとめる活用が紹介されている。⁴⁶ また、大手製造業とMyTokkyo.Ai+IPGeniusを用い、社内データをIDX上の社内DBに構築して知財化を高速で回し続けるインフラの実証実験を開始するとしている。⁴⁷ 加えて、航空・宇宙・防衛領域で暗黙知の知財化を支援する旨の報道もあり、業界別展開の方向性が示唆される。⁴⁸

今後の展望として、Technology Explorerを起点に「特許ランドスケープの自動生成」「出願戦略提案」「技術ポートフォリオ可視化」へ拡張すると明記され、仮想知財部側でも業界・企業規模別テンプレート整備を進めるとしている。⁴⁹

導入検討企業向け推奨アクション（PoC設計案）

flowchart TD

```
S[スコープ定義] --> D[データ準備: 発明メモ/技術資料/既存特許リスト]
D --> C[評価軸とガバナンス設計: 出願/秘匿/公開の判断基準・レビュー体制]
C --> P[PoC実行: 仮想知財部で候補抽出→競合/価値評価→優先順位]
P --> M[効果測定: 工数削減・見落とし低減・意思決定速度・説明性]
M --> R[リスク対策: 誤判定レビュー、機密管理、ログ/根拠の保存]
R --> G[本番展開: 部門拡大・弁理士連携・テンプレ最適化]
```

PoCの成功条件は、(1)「正解」をAIに委ねず人が最終判断する線引き、(2) 価値評価指標を自社の事業KPI（製品ロードマップ、投資判断、M&A等）に接続する設計、(3) 説明可能性（根拠提示・出力理由）を意思決定プロセスに組み込む運用ルール、の3点に置くのが現実的である。⁵⁰

¹ ² ⁷ ¹⁰ ¹⁸ ²⁰ ²¹ ²⁶ ²⁷ ²⁸ ³⁰ ³⁴ ⁴¹ ⁴⁴ ⁴⁵ ⁴⁹ ⁵⁰ <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000443.000042056.html>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000443.000042056.html>

³ ¹⁷ <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000274.000042056.html>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000274.000042056.html>

⁴ ²⁵ (no title)

⁵ ¹² ²² ³⁸ <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000450.000042056.html>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000450.000042056.html>

⁶ ³⁶ <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000417.000042056.html>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000417.000042056.html>

- 8 23 24 <https://www.tokkyo.ai/pvt/>
<https://www.tokkyo.ai/pvt/>
- 9 <https://www.tokkyo.ai/pvt/gpt/>
<https://www.tokkyo.ai/pvt/gpt/>
- 11 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000446.000042056.html>
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000446.000042056.html>
- 13 https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/42056/450/42056-450-b9a8b7e46abc3488d5b802981c3bd4b1-1999x1231.jpg?auto=webp&bg-color=fff&fit=bounds&format=jpeg&height=1350&quality=85%2C65&width=1950
https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/42056/450/42056-450-b9a8b7e46abc3488d5b802981c3bd4b1-1999x1231.jpg?auto=webp&bg-color=fff&fit=bounds&format=jpeg&height=1350&quality=85%2C65&width=1950
- 14 https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/42056/443/42056-443-d5a07e0f5abe561bcd62d746a577649e-1999x1231.jpg?auto=webp&bg-color=fff&fit=bounds&format=jpeg&height=1350&quality=85%2C65&width=1950
https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/42056/443/42056-443-d5a07e0f5abe561bcd62d746a577649e-1999x1231.jpg?auto=webp&bg-color=fff&fit=bounds&format=jpeg&height=1350&quality=85%2C65&width=1950
- 15 https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/42056/445/42056-445-8057dbb16690f1cda1e53ea8386d53cb-1999x775.jpg?auto=webp&bg-color=fff&fit=bounds&format=jpeg&height=1350&quality=85%2C65&width=1950
https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/42056/445/42056-445-8057dbb16690f1cda1e53ea8386d53cb-1999x775.jpg?auto=webp&bg-color=fff&fit=bounds&format=jpeg&height=1350&quality=85%2C65&width=1950
- 16 https://eml.berkeley.edu/~bhall/papers/HallJaffeTrajtenberg_RJEjan04.pdf
https://eml.berkeley.edu/~bhall/papers/HallJaffeTrajtenberg_RJEjan04.pdf
- 19 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000601.000040956.html>
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000601.000040956.html>
- 29 <https://aisamurai.co.jp/>
<https://aisamurai.co.jp/>
- 31 <https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/ai%E3%82%B5%E3%83%9E%E3%83%AA%E3%83%BC%E6%A6%82%E8%A6%81>
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/ai%E3%82%B5%E3%83%9E%E3%83%AA%E3%83%BC%E6%A6%82%E8%A6%81>
- 32 39 <https://clarivate.com/intellectual-property/derwent/patent-search/>
<https://clarivate.com/intellectual-property/derwent/patent-search/>
- 33 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000086119.html>
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000086119.html>
- 35 <https://www.panasonic.com/jp/business/its/patentsquare/faq.html>
<https://www.panasonic.com/jp/business/its/patentsquare/faq.html>
- 37 <https://www.lexisnexisip.com/solutions/ip-analytics-and-intelligence/patentsight/>
<https://www.lexisnexisip.com/solutions/ip-analytics-and-intelligence/patentsight/>
- 40 <https://inspire.wipo.int/orbit-intelligence>
<https://inspire.wipo.int/orbit-intelligence>
- 42 <https://www.patsnap.com/>
<https://www.patsnap.com/>

43 <https://patentpal.com/>

<https://patentpal.com/>

46 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000445.000042056.html>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000445.000042056.html>

47 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000447.000042056.html>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000447.000042056.html>

48 <https://enterprisezine.jp/news/detail/22282>

<https://enterprisezine.jp/news/detail/22282>